

平成30年度

学校評価集計・分析

鹿児島県立指宿高等学校

1－ 教務部集計結果

総合判定 合算(A+B)

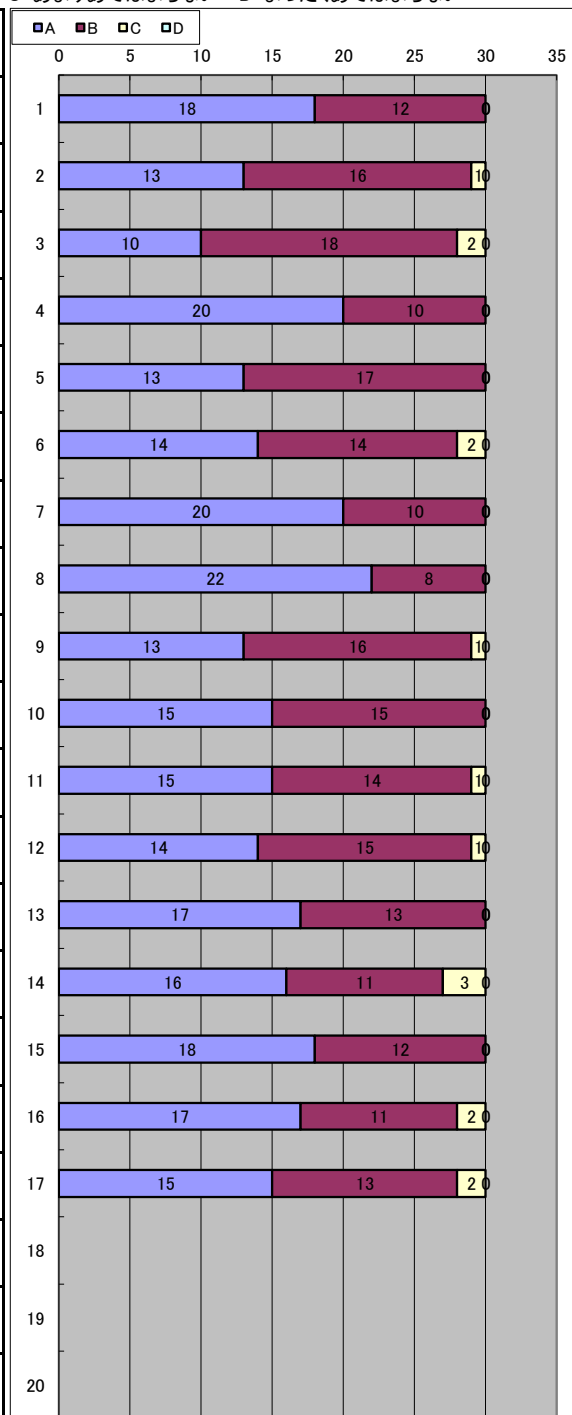
◎=80%以上 △=79～50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	教育目標は、学校の実態に即した目標が適切に設定されている。	18	12	0	0	◎
2	生徒や保護者に対して教育目標や重点を分かりやすく示している。	13	16	1	0	◎
3	学校全体の校務が円滑に推進できるよう、分掌相互の連携が図られている。	10	18	2	0	◎
4	全体朝礼・儀式等は、効率よく計画され円滑に実施されている。	20	10	0	0	◎
5	生徒の個性を伸ばし、進路希望の実現に結びつく教育課程を編成している。	13	17	0	0	◎
6	行事の精選や時間割変更などにより、授業確保の努力がなされている。	14	14	2	0	◎
7	生徒一人一人の習熟度に応じた指導法の研究がなされている。	20	10	0	0	◎
8	研究授業など教職員相互の研究を推進している。	22	8	0	0	◎
9	考査問題の作成および結果についての相互検討の推進と、それに基づく事後指導の徹底が図られている。	13	16	1	0	◎
10	「総合的な学習の時間」は、そのねらいを達成するための計画・実践がなされ、時数が確保されている。	15	15	0	0	◎
11	学校の伝統・校風を大切にしながら、特色ある学校行事の創意工夫を行っている。	15	14	1	0	◎
12	学校と保護者が連携し、協力体制が図られている。	14	15	1	0	◎
13	PTA活動が活発に行われ、学校もその活動を積極的に支援している。	17	13	0	0	◎
14	中学校や地域・関係機関等との連携に向けて、具体的な取り組みが行われている。	16	11	3	0	◎
15	保護者や地域の意見を聞き、その信頼と期待に応えていこうと努めている。	18	12	0	0	◎
16	パソコンによる校務処理により、データの共有化と職務の効率化が図られている。	17	11	2	0	◎
17	様々な教育課題を踏まえた校内研修が計画・実施されている。	15	13	2	0	◎
18						
19						
20						



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

教務部

1. 集計結果の分析・考察

全ての項目で◎であった。（昨年は項目 6 が△）

全員が A・B と評価したのは、8 項目と昨年度 3 項目よりは大幅に増加した。

1・7・8 は昨年にひき続いての高評価であった。授業方法や内容について、教職員同士お互いに意見交換できる雰囲気があるからであろう。

対して、A より B 以下の評価が高く（3 人以上）なったのは、以下の項目である。

2. 「教育目標の保護者生徒への説明」

3. 「分掌相互の連携」

5. 「個に対応した教育課程の編成」

9. 「考査問題の作成」

3 については A と B 以下の評価の差は 10 人である。

学年 3 クラス規模の小規模校で、職員一人一人の仕事量が多くなり、多忙な校務の中ではあるが、地域・中学校・保護者の声に耳を傾け、期待と信頼に応える具体的な取り組みが必要であろう。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

「総単位数を 1 減らしては」とのコメントがあった。

昨年度コメントでは「学校紹介の DVD 作成」「放課後の時間確保」があったが、昨年度よりは改善の方向にいったのではないだろうか。

「校務分掌の相互連携」については、各分掌の引き継ぎをしっかりと、それぞれが、業務内容を把握する必要がある。引き継ぎがしっかりと出来るよう、各個人が校内ラン上のファイルの整理、文書の整理に務め、また、各分掌のマニュアルを作成する必要性があるのではとも思う。

また、全体的に昨年度よりは高い評価であったが、より円滑な学校運営ができるよういろいろなアドバイス等をいただきたいと考える。

活力ある学校作りを進めるとともに、保護者や地域・中学校や関係機関との連携を密にし、募集定員の確保につなげたい。保護者や地域との互恵関係が築ければ、部活動や学習面でも指宿高校にとってプラスに効果が働くと思われる。

2- 生徒指導部集計結果

総合判定 合算(A+B)

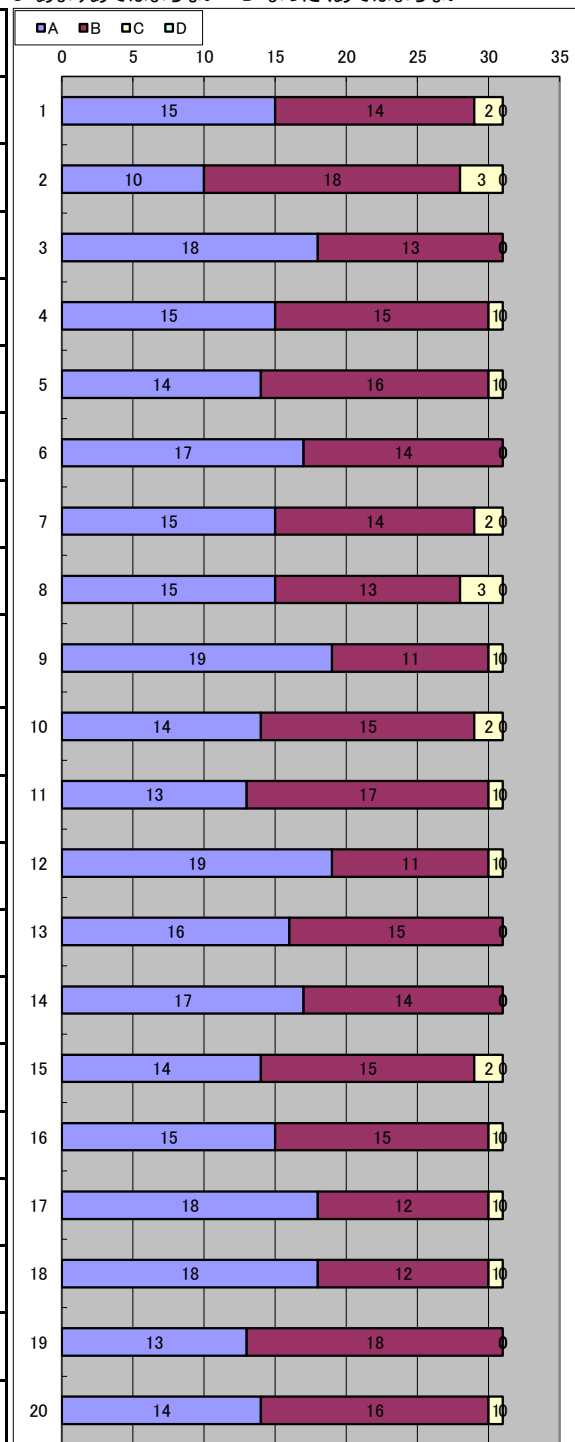
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	校内分掌は、学校の実情や基本方針に応じて人員が配置されている。	15	14	2	0	◎
2	「生徒指導は全職員で行う」という共通理解と指導体制が確立されている。	10	18	3	0	◎
3	命の大切さや人権を尊重する心(いじめに関する教育)など、豊かな心を育てる努力をしている。	18	13	0	0	◎
4	日頃から、問題行動や事故等を未然に防ぐための安全確保に努めている。	15	15	1	0	◎
5	地域社会から本校が信頼を得ているか確認し、「魅力ある学校づくり」を目指し、学校の活性化に努めている。	14	16	1	0	◎
6	生徒の基本的生活習慣の確立を図るとともに社会規範を遵守できる自律心と礼儀作法を育成している。	17	14	0	0	◎
7	諸活動を通し、自主的活動を引き出すとともに、学校生活に目標を持たせ、中途退学の未然防止に努めている。	15	14	2	0	◎
8	教師の資質向上や実践的指導力を養うとともに、学校の活性化につながる研修を企画・実施している。	15	13	3	0	◎
9	きめ細かな教育相談の研究と実践が行われており、問題がみられる生徒にはよく意思疎通を図り、的確に指導している。	19	11	1	0	◎
10	全体集合時等機敏に行動し、私語をしない態度の育成がなされている。	14	15	2	0	◎
11	部活動と学業との両立を目標として、日常的に生徒と交流を図り、学校活性化に役立っている。	13	17	1	0	◎
12	生徒会役員(執行部・HR委員等)にリーダーとして自覚と責任を持たせ、生活や行事に意欲的に取り組ませている。	19	11	1	0	◎
13	校内・校外巡回指導を必要に応じて実施し、生徒の問題行動防止に努めている。	16	15	0	0	◎
14	登下校指導・躰指導・服装指導等を通して、あいさつの励行や交通安全指導を行っている。	17	14	0	0	◎
15	生活のリズムが整っていない生徒を対象に、自学自習や過ごし方を指導している。	14	15	2	0	◎
16	職員間の連絡を密にしながら、生徒とコミュニケーションを図り、円滑な学校生活に積極的に取り組んでいる。	15	15	1	0	◎
17	読書の勧めと有効な図書の整備・活用がなされており、図書館がさまざまな情報収集の場となっている。	18	12	1	0	◎
18	掲示板や図書館だよりを通じて新刊案内等の情報発信に取り組んでいる。	18	12	1	0	◎
19	家庭および関係機関・団体等との綿密な連携による校外指導が徹底されている。	13	18	0	0	◎
20	生徒の健全育成に向け、PTAと地域社会と連携し、その教育力を活用した取組が行われている。	14	16	1	0	◎



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

生徒指導部

1. 集計結果の分析・考察

- ・ 昨年同様、20項目診断のうち、20項目全てで総合判定が◎であった。
- ・ A、Bのみは5項目（昨年5項目） Dのついた項目はなかった（昨年も同じ）
- ・ Cをつけた項目は15項目の延べ人数 2 3 人（昨年15項目延べ人数 2 6 人）でわずかに減少した。
- ・ A、Bのみの回答があったのは、**3**：命の大切さや人権を尊重する心（いじめに関する教育）など、豊かな心を育てる努力をしている。**6**：生徒の基本的生活週間の確立を図るとともに社会規範を遵守できる自律心と礼儀作法を育成している**13**：校内・校外巡回指導を必要に応じて実施し、生徒の問題行動防止に努めている。**14**：登下校指導・躰指導・服装指導等を通して、あいさつの励行や交通安全指導を行っている。**19**：家庭および関係機関・団体等との綿密な連携による校外指導が徹底されている。の5項目。（昨年5項目）
- ・ A：よくあてはまる と答えた評価が過半数を超えた項目は、上記の**3・6・13・14**以外に **9**：きめ細かな教育相談の研究と実践が行われており、問題がみられる生徒にはよく意思疎通を図り、的確に指導している。**12**：生徒会役員（執行部・HR委員等）にリーダーとして自覚と責任を持たせ、生活や行事に意欲的に取り組ませている。**17**：読書の勧めと有効な図書の整備・活用がなされており、図書館がさまざまな情報収集の場となっている。**18**：掲示板や図書館だよりを通じて新刊案内等の情報発信に取り組んでいる。 の8項目であった。（昨年8項目）
- ・ 昨年は C：あまりあてはまらない が 4 人いた項目が二つあったが、今年にはなかった。ちなみに 3 人いた項目は、**2**：「生徒指導は全職員で行う」という共通理解と指導体制が確立されている。**8**：教師の資質向上や実践的指導力を養うとともに、学校活性化につながる研修を企画・実施している。の 2 項目であった。
- ・ 昨年度と比較して、A：よくあてはまる B：ややあてはまる の割合に大きな変化はなかったが、Cの延べ人数や一昨年度の評価からすると、やや良い方向になりつつあると思われる。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

- ・ 生徒指導部のそれぞれの係で、チーフの先生を中心として連携をとりながら非常に良く動いていただいていると思う。
- ・ 昨年のようなSNSへの書き込みのような問題は起きていないが、定期的な注意喚起は必要と思われる。
- ・ 自転車事故や原付通学生の速度超過など安全に対する意識向上を高めなければならない。
- ・ 挨拶、身だしなみ等生徒一人一人の意識づけをしっかりと確立させていきたい。

3- 進路指導部集計結果

総合判定 合算(A+B)

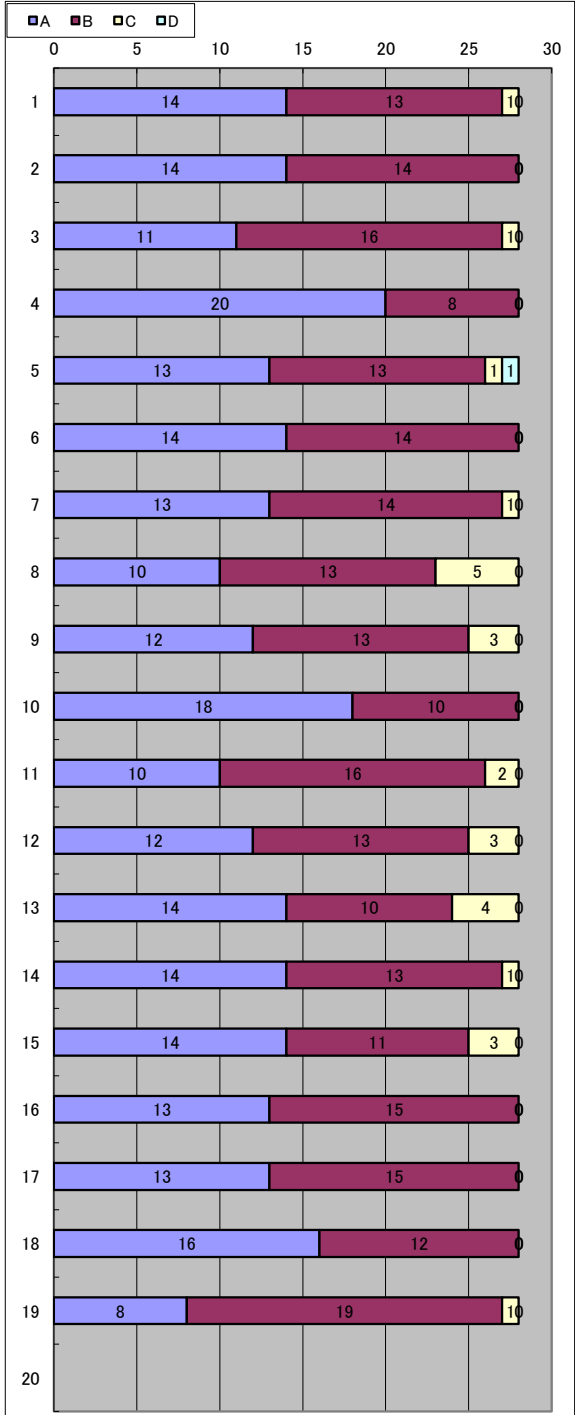
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	個性・能力の啓発と、それに基づく進路の早期決定をはかり、進路目標を確立させている。	14	13	1	0	◎
2	学級担任・教科担任間の緊密な連携により、生徒の個性・能力の総合的な把握を推進している。	14	14	0	0	◎
3	学年間の連携により、段階を踏まえた指導計画・指導体制を確立している。	11	16	1	0	◎
4	進路情報を計画的に提供している。	20	8	0	0	◎
5	自主的な学習姿勢を育て、進路実現を進める進路体制を確立している。	13	13	1	1	◎
6	各係が仕事を分担し、積極的に生徒を指導し、的確な進路指導を目指している。	14	14	0	0	◎
7	朝課外の30分間は、有効に活用できている。	13	14	1	0	◎
8	宅習課題の適正化の研究・実施と宅習習慣の定着指導がなされている。	10	13	5	0	◎
9	夏季・冬季の課外は、現在の日数が適当である。	12	13	3	0	◎
10	列車通学生にとって、朝課外の開始時刻は現在のままでよい。	18	10	0	0	◎
11	土曜学習は、進路志望実現のための学力向上に役立っている。	10	16	2	0	◎
12	進路講演会は各学年に応じた進路指導に役立っている。	12	13	3	0	◎
13	公務員・就職希望の生徒のための指導が適切に行われている。	14	10	4	0	◎
14	対外模試は、生徒の学力の把握、また生徒の学力向上に役立っている。	14	13	1	0	◎
15	小論文・志望理由書の指導は、進路意識の高揚に役立っている。	14	11	3	0	◎
16	実力考査は、生徒の学力向上、生徒の学力把握に役立っている。	13	15	0	0	◎
17	視聴覚教室での自学自習は、しっかり行われている。	13	15	0	0	◎
18	合格体験記は、1・2年生の進路指導に役立っている。	16	12	0	0	◎
19	生徒への進路指導は、保護者によく理解されている。	8	19	1	0	◎
20						



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

進路指導部

1. 集計結果の分析・考察【生徒在籍数 昨年度比：20余人減】

① 進路指導部集計より

今年度すべて◎，昨年度「12進路講演会」以外すべて◎，一昨年度すべて◎

A～Dの評価が大きく変動した項目（注意を要する項目）←昨年度

7「朝課外30分有効活用」 A 13 B 14 ←A 17 B 11

5「自主的な学習姿勢」 D 1 ← D 0

8「課題の適正化」「宅習習慣定着」 A 10 B 13 C 5←A 10 B 12 C 2

17「視聴覚室での自学自習」 A 13 B 15 ←A 17 B 7

頂いたご意見

5「自主的な」学習姿勢を育てるといよりは、自主的には出来ないから日々題で強制的に学習させる機会を与えてやるという方が強いと感じる。

・朝課外の出欠確認を毎回確実に行うべきである。生徒の中には出席簿上、遅刻や欠席にならないということをする生徒が増えてきたのは、このことが原因である。毎日頑張っている生徒がほとんどであるので、正直者が損をしない学校にすべきである。

② 保護者評価集計より【項目11～15】今年度すべて◎，昨年度◎

項目・A～Dについて、昨年度大きく変わるものはない。

1 学年の15「学習と部活動の両立」は、昨年度に続いて◎（一昨年度まで△続く）

D評価は、項目11が1人←0人，12が1人←0人，13が1人←0人。

14が3人←2人，15が2人←3人

C評価が、昨年度より増加したのは、

項目11が31人←29人，12が16人←12人，13が18人←13人，

③ 生徒自己評価集計より【項目2・7・12～14・18～21】

7「先生から適切なアドバイスをもらっている」・12「ノートのと리카た・利用の仕方を工夫している」 2年△

14「進路だよりを読んでいる。 1年△・2年×・3年△

19「課題（宿題）は適切な量」・20「疑問・質問・悩みの相談に応えてくれる」

2年△

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

① 17「視聴覚室での自学自習」

→ 生徒への声かけ・見届けを行う。継続的な指導が必要と考える。

職員・生徒ともに、視聴覚室利用のルール確認する。

・「朝課外の出欠確認の徹底」

教科担任は、欠席した生徒がいたら必ず担任・該当生徒との確認厳守。

③ 14について、「進路だより」の必要性を感じてもらえる中身の充実と利用方法について、学年（職員）との連携を図る。

12「**生徒**ノートの取り方・利用の仕方の工夫」・「**先生**指導法・課題の工夫」において、C・Dの生徒の存在。

→ 4月当初：特に高1年生へのオリエンテーション（学習方法の指導）の中身の充実が必要。

4- 保健部集計結果

総合判定 合算(A+B)

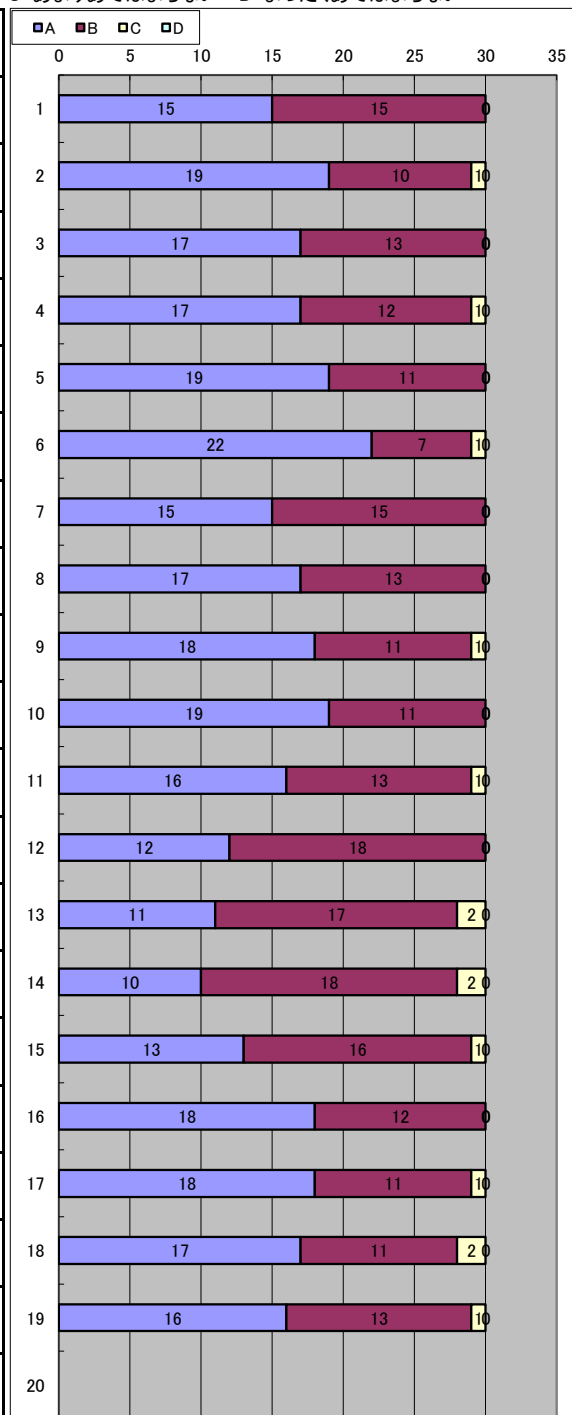
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	保健行事や保健指導内容を綿密に計画し、保健部全体がスムーズに運営されている。	15	15	0	0	◎
2	各部や各委員会との連携を図り、学校全体で生徒の健康教育推進に取り組んでいる。	19	10	1	0	◎
3	学校保健委員会や生徒保健委員会は積極的に活動し、健康教育推進に取り組んでいる。	17	13	0	0	◎
4	保護者及び医療及び他の関係機関との連携強化が図られている。	17	12	1	0	◎
5	健康診断の確実な実施、実態の把握、事後指導が適切になされている。	19	11	0	0	◎
6	保健室来訪者や生活実態調査などにより悩みを抱える生徒の実態を把握し、適切な「心のケア」ができてい	22	7	1	0	◎
7	栄養・睡眠など基本的な生活習慣の指導を行い、実践に努めさせている。	15	15	0	0	◎
8	生徒指導部と連携し、喫煙防止及び薬物乱用防止の啓発がなされている。	17	13	0	0	◎
9	行事や体育の授業において、集団行動の指導に取り組んでいる。	18	11	1	0	◎
10	体育の授業や体育的行事を通して、運動技能や体力の向上が図られている。	19	11	0	0	◎
11	生徒の自主性をいかした体育的行事が行われている。	16	13	1	0	◎
12	人権尊重の視点に立ち、保健・安全指導に努めている。	12	18	0	0	◎
13	生徒職員が一体となり、校内の美化に努めている。	11	17	2	0	◎
14	生徒職員が一体となり、資源ゴミの分別収集に努めている。	10	18	2	0	◎
15	清掃用具の管理は適切に行われている。	13	16	1	0	◎
16	防火防災の訓練は綿密な計画のもと、的確に行われている。	18	12	0	0	◎
17	災害などに対する危機意識向上のための指導が適切に行われている。	18	11	1	0	◎
18	毎月の安全点検が確実にされ、早急でかつ的確な対応がなされている。	17	11	2	0	◎
19	公共物の使用の指導やリサイクルに努めるなど、環境保全率先実行計画を推進している。	16	13	1	0	◎
20						



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

保健部

1. 集計結果の分析・考察

- ・全ての項目で◎ (A+Bが80%以上)であった。
- ・評価項目 6 適切な「心のケア」が30名中22名がAの評価であった。養護教諭を中心に今後も連携を図り，全教職員の共通理解・共通実践を行っていききたい。
- ・評価項目 2 学校全体としての健康教育推進・ 5 健康診断・ 1 0 体力向上も30名中19名がAの評価であった。
- ・評価項目 1 4 ごみの分別収集がAが10名， 1 3 校内美化がAが11名と他の項目と比べて評価が低かった。この2つの項目と 1 8 安全点検の評価Cが2名いた。
- ・生徒の校内美化が課題である。
- ・安全点検日の実施が遅れることが多かった。点検簿の配付を安全点検日に実施して，期限を守って実施していただきたい。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

- ・生徒の減少に伴い，清掃区域の見直しが必要である。
- ・クリーンアップデ이의作業内容も見直す必要がある。クリーンアップデ이가大掃除のない月に設定されているのは，日々の清掃時に行っていない場所(グラウンド，駐車場等)を清掃するためである。学級園の手入れ等は期間を設定して実施するものである。
- ・運動部活動生の減少，スマートフォンの普及などで本校生徒の体力の低下は顕著である。運動部活動の活性化，保健体育の時間での補強運動内容の見直し，体育理論学習での自らの体力向上方法の検討等が喫緊の課題である。
- ・生徒ひとりひとりへの「心のケア」は今後もさらに全教職員による共通理解・共通実践を図っていききたい。

5- 教職員自己評価集計結果

総合判定 合算(A+B)

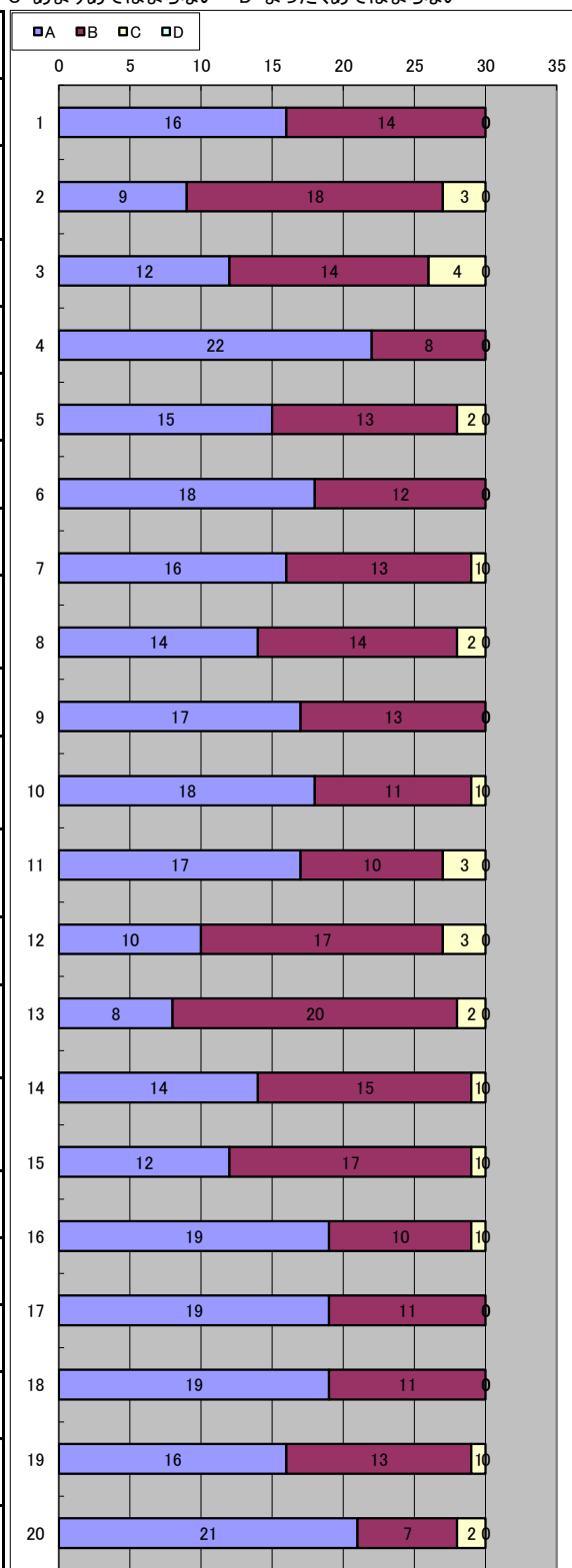
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	本校の課題を十分認識し、その解決のために日ごろの教育活動を積極的にやっている。	16	14	0	0	◎
2	社会変化に対応するため、教育に関する提言や地域の意見等の情報を積極的に収集し、その理解・解決に努めている。	9	18	3	0	◎
3	各種研修会に意欲的に参加し資料を参考にするなど、自己研鑽を行っている。	12	14	4	0	◎
4	勤務の厳正化や服務規律の遵守について自覚して努力している。	22	8	0	0	◎
5	年間指導計画について教科で話し合ったものを生徒に提示し、計画的に授業を行っている。	15	13	2	0	◎
6	学力の実態に即し、教材研究・授業方法の工夫・改善を図っている。	18	12	0	0	◎
7	生徒の反応や意見を十分把握し、分かる授業を行っている。	16	13	1	0	◎
8	予習・復習や課題の内容についてはその妥当性を検討するとともに、実施状況や提出状況を常に点検し、指導の徹底を図っている。	14	14	2	0	◎
9	始業ベルと同時に授業を開始して、授業時間確保と生徒の授業態度の指導に努めている。	17	13	0	0	◎
10	一人一人の生徒の状況(学力・健康・心情・環境等)を把握するとともに、常に状況を観察して生徒理解に努めている。	18	11	1	0	◎
11	欠席・遅刻・早退、生徒の安全(事故・いじめ等)に関する状況を絶えず把握し、必要に応じて保護者と連絡を取っている。	17	10	3	0	◎
12	「向上の道」等を活用して、学習の習慣化の指導に努めている。	10	17	3	0	◎
13	特別活動(LHR・学校行事・生徒会活動等)に計画的に取り組みせ、生徒個々の活動についてもきちんと把握している。	8	20	2	0	◎
14	学級経営や授業の実践は学校の経営方針に従い、生徒の実態や保護者の願い・希望を十分踏まえながら行っている。	14	15	1	0	◎
15	各学年の進路指導計画に従って、生徒および保護者に情報を与え、的確な進路指導を行っている。	12	17	1	0	◎
16	生徒指導の方針をよく理解して生徒にきちんと説明し、日常生活指導に努めている。	19	10	1	0	◎
17	保健部の方針をよく理解し、清掃活動は生徒と共に取り組んでいる。	19	11	0	0	◎
18	学級に関する公簿の記入、管理は正確・適正に行っており、学級の施設・備品等の管理も適切に行っている。	19	11	0	0	◎
19	正・副担任でお互いに生徒に関する指導の経過や情報を伝え合い、常に協力して学級経営を行っている。	16	13	1	0	◎
20	校務分掌では自分の係の内容を把握し、工夫・改善しながら企画・運営に積極的に取り組んでいる。	21	7	2	0	◎



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

教職員自己評価

1. 集計結果の分析・考察

〔全体的な傾向〕

昨年に続き、総合判定は、すべての項目で◎となっている。ほとんどがA・Bの評価である。Aの評価で見ると、13の項目が8で最も少ない。また、3の項目でCの評価が4で最も多かった。

〔Aの評価の少ない項目の分析・考察〕

○13（特別活動（LHR・学校行事・生徒会等）への取り組みせ方、生徒の活動について）

LHR・学校行事・生徒会活動は担任または係主体となるため、それ以外の職員は直接的に携わっていないからとの意識の表れと思われる。また、生徒の個々の活動をきちんと事細かにまで把握しきれていない意識からAが少ないと思われる。

〔Cの評価の多い項目の分析・考察〕

○3（各種研修会への意欲的参加・資料参考などの自己研鑽）

教職員の長時間労働や校務の多忙化の状況下のため、個々に意欲的に研修へ参加したり自己研鑽につとめたりしにくい状態の教職員もいるためではないかと思われる。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

〔改善策〕

13の項目（LHR等特別活動への取り組みせ方）については、現在のところ主に担任または携わっている係でないと評価しづらい内容である。

担任だけ・係だけの仕事とならないよう、職員全体で考え、フォローし、支えあっていくような、連携した教育活動を目指していくべきだと考える。また一方では、仕事を公平に分担できるような体制の構築も図っていくべきだと考える。

3の項目（各種研修会への意欲的参加・資料参考などの自己研鑽）については、誰もが各種研修会に意欲的に参加でき、自己研鑽につとめられるようになることが望ましい。校務の多忙化解消を目指して、行事の精選や仕事のスリム化ができるところはスリム化を図っていくようにしていくべきだと考える。

〔その他の項目の今後のあり方・方向性〕 ※評価の高いものについて

4の服務規律の遵守に関しては、ここ数年間繰り返し、逐次職員への呼びかけ・校内研修などが行われてきていることが、高い評価につながっている。今後も日頃からの教職員への意識付けを継続的に行われていけば、服務規律遵守の自覚を維持できるであろう。

6ー 生徒学校生活集計結果(1年)

総合判定 合算(A+B)

◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

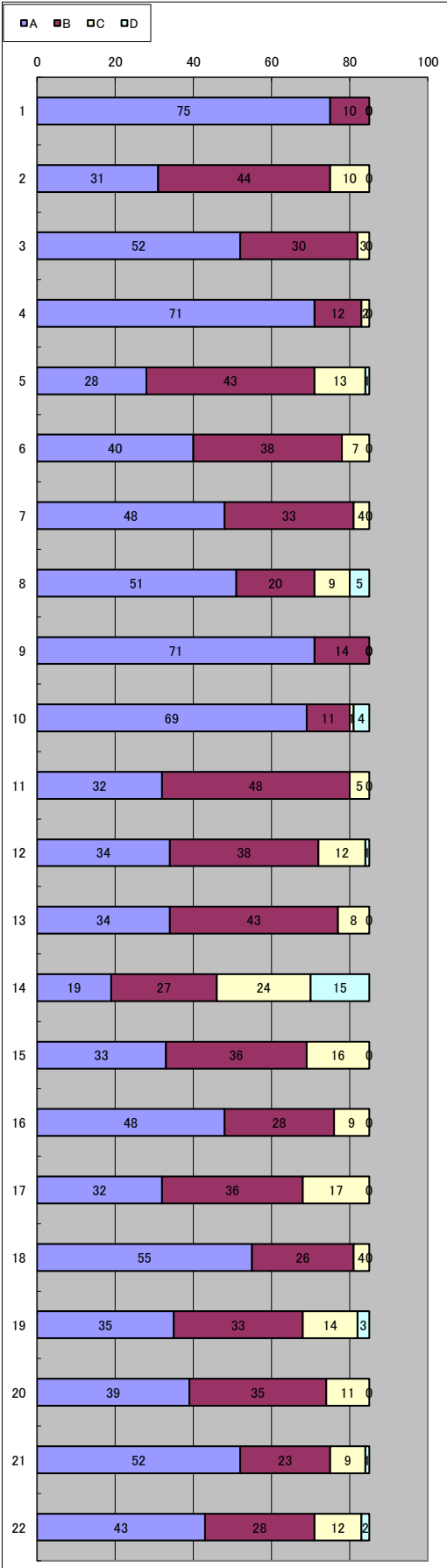
A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない

D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	体育祭、文化祭及び池田湖一周遠行などの学校行事には積極的に参加している。	75	10	0	0	◎
2	各種の講演会等は、自分の生き方や在り方を考える上で参考にしている。	31	44	10	0	◎
3	LHRや柏葉の時間は将来の進路を考えた、学校生活を充実させたり、有意義な時間としている。	52	30	3	0	◎
4	朝読書(朝自習)の時間は落ち着いて読書(自習)をしている。	71	12	2	0	◎
5	保護者に学校の配布物をきちんと渡し、学校のことについても話している。	28	43	13	1	◎
6	学校の雰囲気は良く、充実した日々を送ることができるので後輩にも勧められる学校である。	40	38	7	0	◎
7	日頃の生活や学習及び進路について、先生方から適切なアドバイスをもらっている。	48	33	4	0	◎
8	部活動や生徒会活動に積極的に参加し、他の人たちと協力しながら自分を向上させようと努めている。	51	20	9	5	◎
9	交通ルールや社会生活のマナーを守っている。	71	14	0	0	◎
10	携帯電話、音声プレーヤー等を学校に持ち込んでいない。	69	11	1	4	◎
11	困っている人や手助けを求めている人に対して、進んで手を差し延べることができる。	32	48	5	0	◎
12	宅習や授業中のノートのとりかた、利用の仕方を工夫している。	34	38	12	1	◎
13	日々の授業に意欲的に臨み、学力向上に努めている。	34	43	8	0	◎
14	「進路だより」を読んでいる。	19	27	24	15	△
15	高校生として基本的な生活習慣を身につけ、食事や運動に注意し、健康管理に常に努力している。	33	36	16	0	◎
16	任された区域の清掃に一生懸命取り組んでいる。また、教室内の美化や教材等の整理整頓について日頃から意識して学校生活を送っている。	48	28	9	0	◎
17	地震や火災等の災害時にどのような行動をとるべきか理解している。	32	36	17	0	◎
18	先生方は生徒が意欲的に授業に取り組めるよう、指導法や課題等を工夫している。	55	26	4	0	◎
19	与えられた課題(宿題等)は、適切な量である。	35	33	14	3	◎
20	先生方は日頃から声を掛けて、生徒の疑問・質問や悩みなどの相談によく応えてくれる。	39	35	11	0	◎
21	先生方は授業の終始のけじめや、自習に対する手立てをきちんとしている。	52	23	9	1	◎
22	先生方の、学校生活での生徒に対する態度は、すべての生徒に対して公正である。	43	28	12	2	◎



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

1 学年

1. 集計結果の分析・考察

1 学校行事・特別活動に関する評価（番号 1～8）・・・・・・全て◎

全ての項目において概ね良好な回答であった。特に「1：学校行事への積極的な参加」については 88%が A と答えており、自ら動く行事には積極的に参加している。一方、受け身的な講演会などの行事については、やや積極性に欠ける傾向がある。

「5：保護者に配布物を渡し、学校のことを話す」は 16%が C，D と回答しており、家庭環境の複雑さがうかがえる。

2 行動規範・行動倫理に関する評価（番号 9～11）・・・・・・全て◎

96%が A，B と回答しており、良い評価が得られている。「10：携帯電話などを学校に持ち込まない」は 4 人が D と回答しているが、この中には許可を得て校内に持ち込んでいる生徒も含まれている。決まりやマナーを守るなど高校生として必要な常識は身につけている。

3 学習・進路意識に関する評価（番号 12～14）・・・・・・◎2，△1

「14：「進路だより」を読んでいる。」は 46%が C，D と回答しており、進路意識の低さが表れている。ただ、今年から進路だよりは“じりつ「自律と自立」”と名称が変わっていたため、進路だより＝じりつ「自律と自立」であることに気づいていない生徒も含まれていると思われる。

4 保健・安全面に関する評価（番号 15～17）・・・・・・全て◎

「17：災害時の行動」は 20%が C と回答しており、災害時の行動を理解するには年 2 回の防災訓練だけでは不十分であることがうかがえる。

5 指導に関する評価（番号 18～22）・・・・・・全て◎

全ての項目において概ね良好な回答であった。「19:課題は適量である」は D が 3 名いた。課題が多くて不適切なのか、少なくても不適切なのかは今回のアンケートからはわからない。「21：先生方の態度は公正である」は D が 2 名，C が 11 名で、割合にして 15%が何らかの不満を持っているようである。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

- ・ 力量にあった課題か検討の上、課題が済まない生徒には、放課後の決められた時間内に学校で宿題を済ませてから帰るように声をかける。部活との兼ね合いが難しい。顧問との連携が必要である。
- ・ 防災教育は各授業の中で取り扱い、各教科からの視点で学習させる。
- ・ 指導への不信を持っている生徒がいる。指導時になぜ指導を受けているのか説明し、理解させる必要がある。また、普段からも教師と生徒が話をする機会を増やす努力が必要である。
- ・ 真面目ではあるが、行動が受け身である。自ら考え行動する意識が高まれば、各項目の C・D を選択した生徒の行動が変化すると思われる。失敗しても間違っても良いから行動させるためには、指導の工夫が必要であろう。

6ー 生徒学校生活集計結果(2年)

総合判定 合算(A+B)

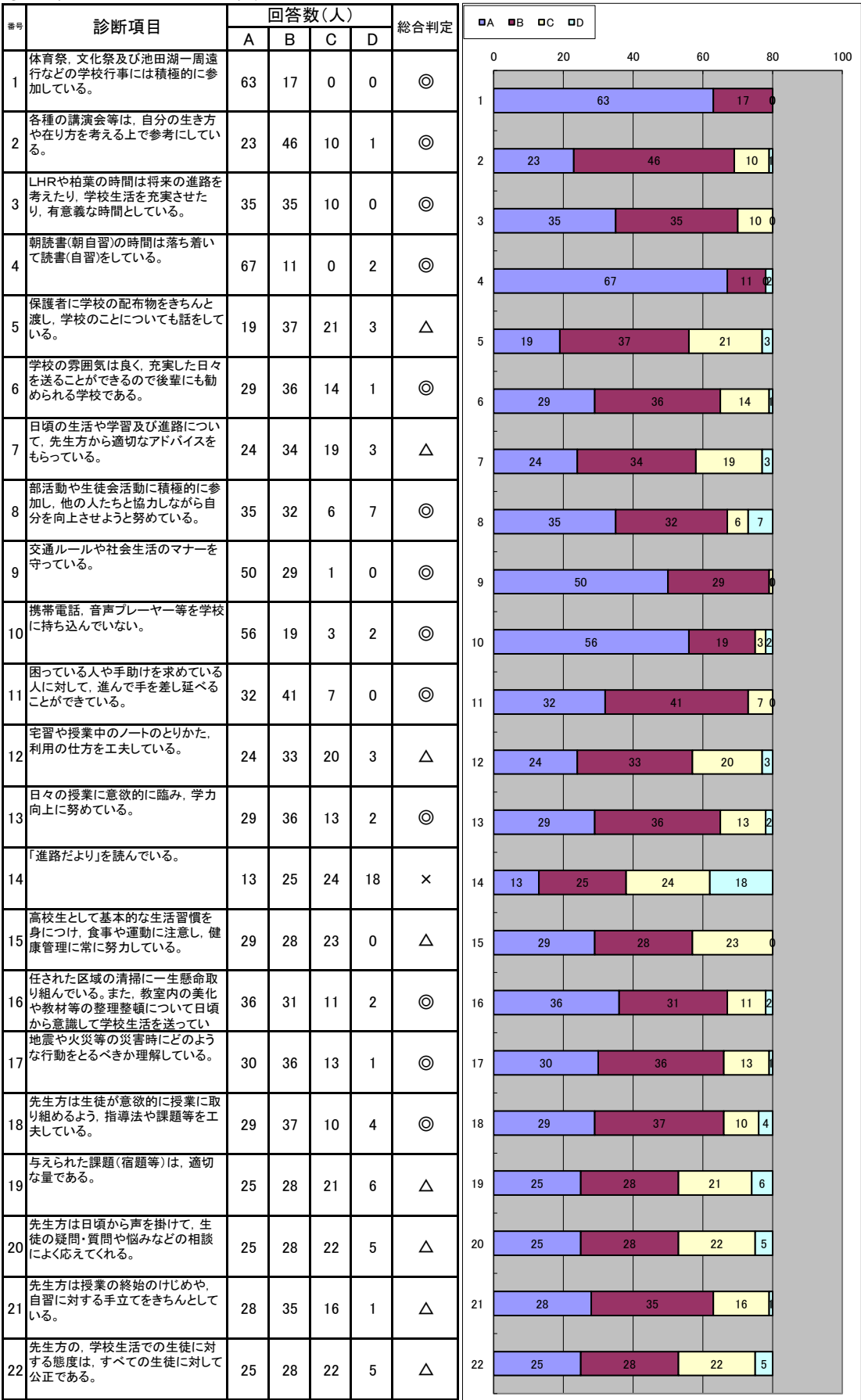
◎=80%以上 △=79～50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない

D=まったくあてはまらない



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

2 学年

1. 集計結果の分析・考察

- ・ 1学年，3学年と比べて残念ながら×(A+Bが49%以下)が1つ，△(A+Bが79～50%以下)が8つと低い判定となっている。
- ・ 診断項目14「進路だより」を読んでいるが×で評価が最も低い。
- ・ △について
診断項目5配布物，7学習・進路についてのアドバイス，12ノートのとおり方・利用，15基本的生活習慣，19課題の量，20質問・悩み相談，21授業の始まり・終わり・自習の手立て，22先生の公正さの評価が低い。
生徒自身の生活についての反省と教職員への検討すべき点に分かれる。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

- ・ 「進路だより」等の配布物については，時には読み合わせをするなどの手立ても必要かと思われる。
- ・ 診断項目5の配布物や学校のことについての家庭での会話については学校でのプリント類の整理整頓の指導やPTSAなどで話題にしてみるのも一つの手立てである。
- ・ 診断項目19課題については検討も必要であるが，15基本的生活習慣が身に付かなければ，家庭での学習習慣も身に付いていかない。「向上の道」等の活用で生徒自身に自らの生活習慣を見直させたい。
- ・ 診断項目22先生の公正さについては私たち教員も謙虚に受け入れていきたい。

6- 生徒学校生活集計結果(3年)

総合判定 合算(A+B)

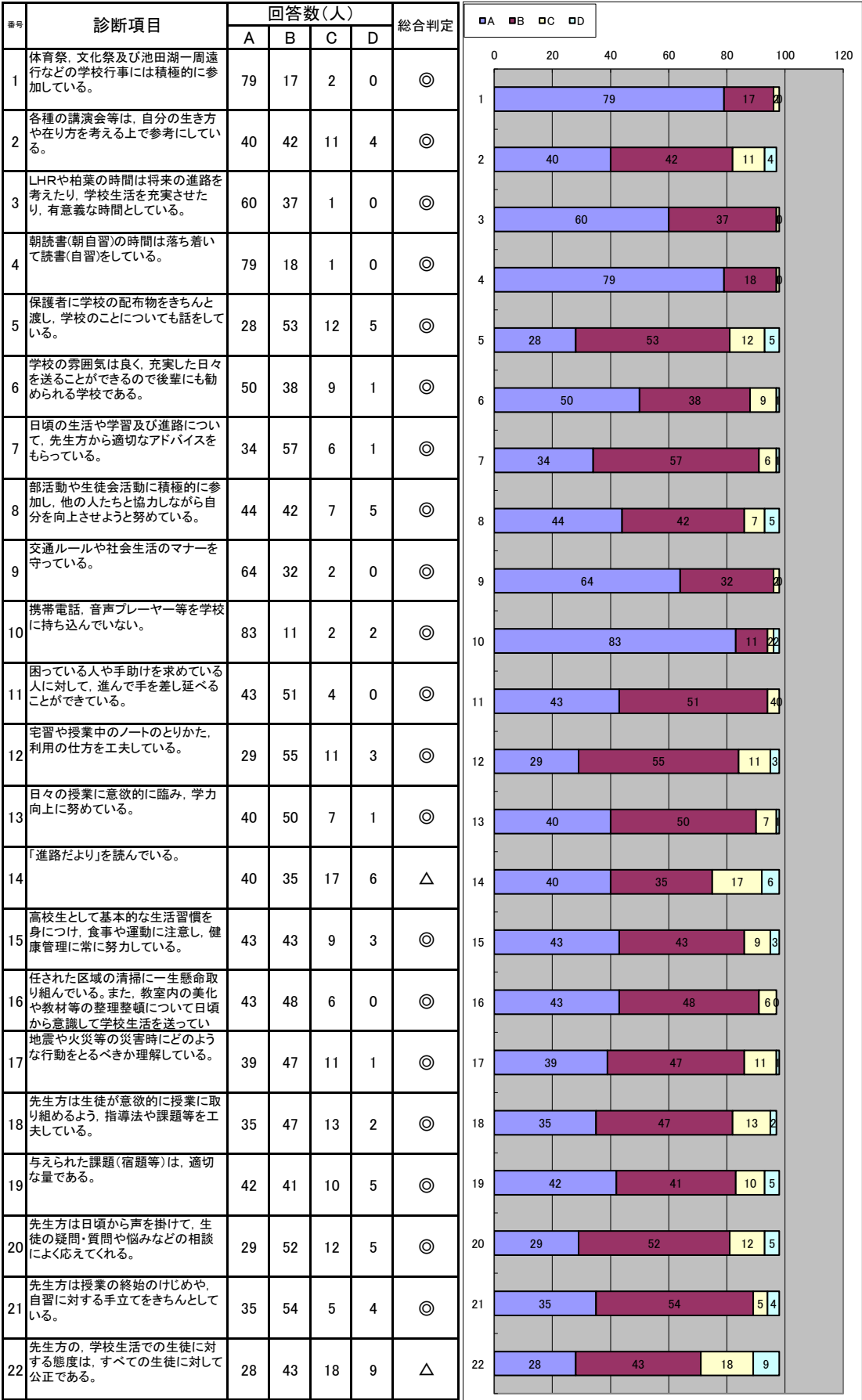
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない

D=まったくあてはまらない



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

3 学年

1. 集計結果の分析・考察

- 1 学校行事・特別活動に関する評価（番号 1～8）・・・・・・すべて◎
全ての項目において概ね良好な回答であった。
特に「1：学校行事への積極的な参加」については81%がAと答えており，行事には積極的に参加している。
一方，「5：保護者に配布物を渡し，学校のことを話す」は2年次は△であったが3年次では◎となっており改善されてはいるが，Aと解答した生徒は29%で全質問項目中で最も低く，学校生活に関する家庭での会話が充分になされていないことが窺える。
- 2 行動規範・行動倫理に関する評価（番号 9～11）・・・・・・すべて◎
96%以上がA，Bと回答しており，良い評価が得られている。決まりやマナーを守るなど高校生として常識的な行動が取れていることが解る。
- 3 学習・進路意識に関する評価（番号 12～14）・・・・・・◎2，△1
「14：「進路だより」を読んでいる。」は23%がC，Dと回答しており，進路学習への活用が不十分な生徒の割合が高い。配布後に進路からのプリントを広げて読み込むタイミングを逃してしまう生徒が少なからずいるのでは無いかと考えられる。
- 4 保健・安全面に関する評価（番号 15～17）・・・・・・すべて◎
2年次から引き続いて保健・安全面についての評価が高く出ており，意識も高いことが窺える。
- 5 指導に関する評価（番号 18～22）・・・・・・◎4，△1
「22：先生方の，学校生活での生徒に対する態度は，すべての生徒に対して公正である。」はCが18人，Dが9名で生徒の28%と割合が高く，指導への不公平感を持っているようである。教育活動がスムーズに行える土台となる「信頼感」は重要であり，この28%は0%にしなければならない項目である。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

- ・ 全体的には現在の在り方・方向性は問題ないと考えられる。
- ・ 進路からの配布物については，配布時に何を考えて欲しいのか短い説明を付ける。家庭での親子の会話については，PTA等で保護者へ呼びかけるとともに，学校でも生徒への呼びかけを定期的に実施する。
- ・ 指導への不公平感を持っている生徒がいる。指導時になぜ指導を受けているのか説明し，理解させる必要があり，他のマイナスの事例と比較するのでは無く，現状がマイナスだから，ゼロ又はプラスに成って欲しいことまで含めて丁寧な指導をする努力が必要である。

7- 保護者評価集計結果(全体)

総合判定 合算(A+B)

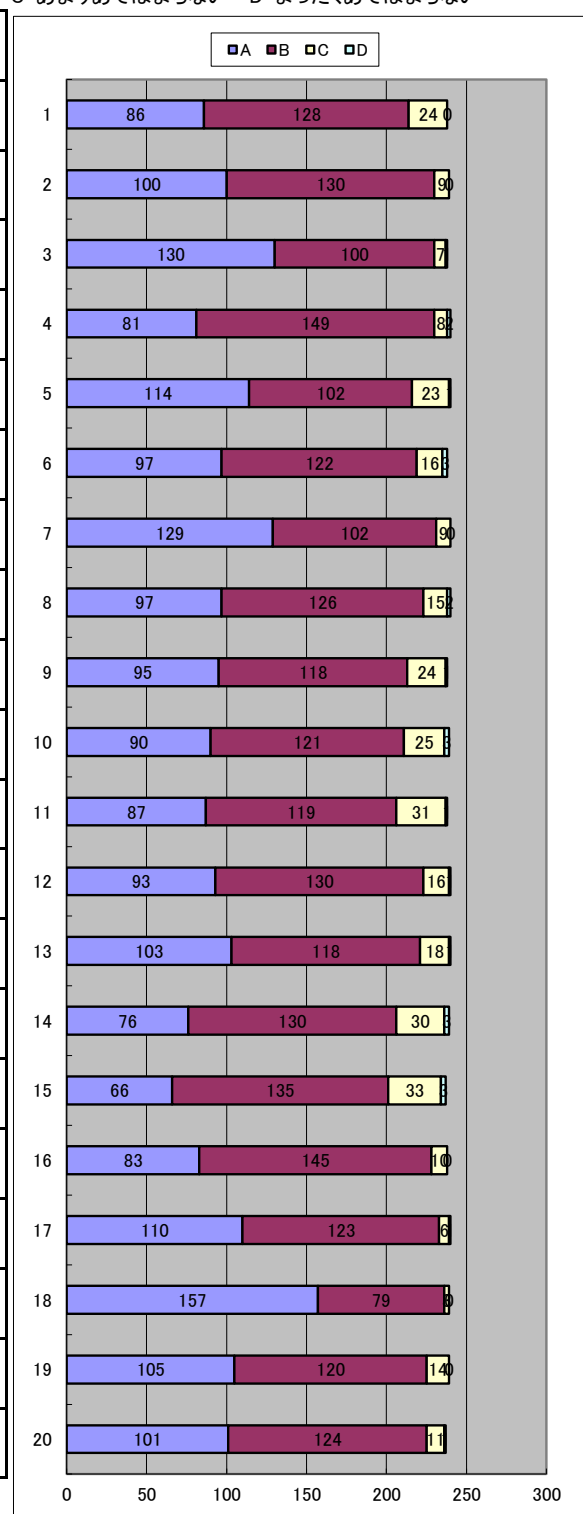
◎=80%以上 △=79~50% ×=49%以下

A=よくあてはまる

B=ややあてはまる

C=あまりあてはまらない D=まったくあてはまらない

番号	診断項目	回答数(人)				総合判定
		A	B	C	D	
1	教育方針・目標について保護者に十分説明がなされている。	86	128	24	0	◎
2	「柏葉通信」等、広報活動が良くなされており、学校の様子がよく分かる。	100	130	9	0	◎
3	生徒の動静(欠席・遅刻・早退)等について、互いの連携はよくとれている。	130	100	7	1	◎
4	PTA活動等を通して学校と保護者の協力体制が機能している。	81	149	8	2	◎
5	職員は熱意を持って適切な言動・態度で対応してくれる。	114	102	23	1	◎
6	生徒と教師の信頼関係に基づいた適切な指導が行われている。	97	122	16	3	◎
7	服装・髪型・あいさつなどきちんと指導がなされている。	129	102	9	0	◎
8	生徒は交通ルール、乗車マナーを守って通学している。	97	126	15	2	◎
9	部活動に力を注ぎ、生徒の心身の鍛錬・育成に努めている。	95	118	24	1	◎
#	職員のチームワークが良く、指導に信頼が置ける。	90	121	25	3	◎
#	生徒一人一人を大切に、個に応じた学習・進路指導がなされている。	87	119	31	1	◎
#	進路だよりや講演会等を通じて進路情報が適切に提供されている。	93	130	16	1	◎
#	進路実現のために、授業・課外等を通じて学力向上が図られている。	103	118	18	1	◎
#	学習内容及び課題の量は適切である。	76	130	30	3	◎
#	学習と部活動の両立がうまくなされている。	66	135	33	3	◎
#	生徒の健康保持・増進に向けた指導が適切に行われている。	83	145	10	0	◎
#	環境美化に努め、校内・学校周辺の清掃が適切になされている。	110	123	6	1	◎
#	文化祭・体育祭・遠行など諸行事に生徒が積極的に参加している。	157	79	3	0	◎
#	生徒同士が高めあう環境があり、良い刺激を受けている。	105	120	14	0	◎
#	教育活動を推進するに当たり、生徒・保護者の人権に配慮がなされている。	101	124	11	1	◎



学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

平成 30 年度

保護者

1. 集計結果の分析・考察

○回収率

全体の回収率は、88.9%（1年87.5%，2年77.8%，3年99.0%）。昨年度は、98.6%

○評価の全体傾向

各学年ともAとBの評価が多く、すべてが◎だった。

11（個に応じた進路指導），14（課題の量），15（学習と部活動の両立）の項目のC・Dがやや多かった。

○項目ごとの集計

＜A，Bの合計が多いもの＞

18. 文化祭・体育祭・遠行など諸行事に生徒が積極的に参加している。（236人）

17. 環境美化に努め、校内・学校周辺の清掃が適切になされている。（233人）

2. 柏葉通信等広報活動がよくなされており、学校の様子がよく分かる。（230人）

3. 生徒の動静等について、互いの連携はとれている。（230人）

4. PTA活動等を通して学校と保護者の協力体制が機能している。（230人）

18, 17は昨年度と同様、評価が高かった。総じて指宿高校生は基本的生活習慣が確立されており、有意義な学校生活を過ごせていると保護者も感じているようである。

＜C，Dの合計が多いもの＞

15. 学習と部活動の両立がうまくなされている。（36人）

14. 学習内容及び課題の量は適切である。（33人）

11. 生徒一人一人を大切に、個に応じた学習・進路指導がなされている。（32人）

10. 職員のチームワークが良く、指導に信頼がおける。（28人）

合計数は減少したものの、評価の低い項目は昨年、一昨年と変わらない。

生徒の学力差も大きく、個々の指導が難しくなっている現状がある。しかし、進学校としての学力向上、生徒が希望する進路実現への期待も高い。

2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

放課後は生徒が部活動に取り組めるように、部活の時間帯を保障することを教職員間で再確認する必要がある。それぞれの教科で指導法を話し合い、学力差に応じた少人数指導、その適正なクラス分けを考えていく必要がある。また教科、部活動の担当者間の連携を図り、下校時間の厳守、土日の過ごし方など、時間の使い方の指導も行う。各教科間で、課題の量の調整を適宜行う。本当に課題の量が調整されているのか生徒の記録する『向上の道』をもとに、再評価する必要がある。